７－３　真木野の女人信仰の資料

蕨 由美

はじめに

2023 年 4 月 22 日、真木野集会所にて、真木野の方々との懇談会で、子安講と庚申講の話を伺い、講で用いる掛軸を拝見した。7 月 28 日には八千代市立郷土博物館にて、真木野の山﨑一男家が所蔵する掛軸など 50 点の史料を故一男氏の弟さんの山﨑博康氏に持参していただき、「法華曼荼羅」「鬼子母神像」などの掛軸を閲覧することができた。

また、8 月 3 日、山﨑博康氏には「アワヌシ様」の小祠を拝見させていただいた。

これらの中から女人信仰に関連する資料を紹介する。

１．子安講の掛軸

子安講の際に用いられる掛軸は２幅あり、集会所に収蔵されている。

(1)「子安鬼子母神掛軸」

天女形鬼子母神像を描く紙本彩色肉筆の美しい掛軸である。

主尊銘は「子安鬼子母神」で、角のない「鬼」の字を用いている。左右の「若悩乱者」「頭破七分」は、妙楽大師の『法華文句記』に説かれた文で「法華経の行者を悩乱する者の頭を鬼子母神・十羅刹女が阿梨樹の枝のように破る」との意味である。

子安鬼子母神像の服装は、女神像に多い「唐様」で、鰭（ひれ）袖のがい襠衣を着し、天衣（てんね）をまとう。頭に宝冠を被り、左手で子を抱き、右手に吉祥果の柘榴の枝を持つ慈愛にみちた姿である。

絵の作者は「金居」、美人画を得意とした優れた画家と思わ

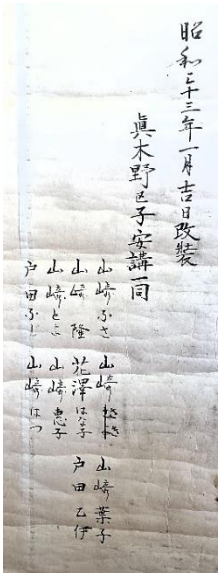
表１　子安鬼子母神掛軸（文政 10 年）　写真と翻刻

れる。文政 10 年（1827）の年銘と「高誉山　日俊」（妙徳寺 23 世住職）の銘が記され、裏面には「改装　昭和三十六年八月吉日　子安講中」と記されて、昭和 36 年（1961）に表装を改めたことがわかる。（表 1）

(2)「子安講掛軸」（手児奈霊神掛軸）

主尊「手児奈霊神」像の版摺に、墨書加筆した掛軸と思われる。唐様の衣装をまとい右手に柘榴の枝を左手に宝珠を持つ霊神像の上に、髯題目、像の下に「真間山弘法寺　七十世（謙光院）日慎」の署名と花押がある。

表 2　子安講掛軸　明治 44 年　写真と翻刻

		裏面	
	明治四十四年九月良辰洗手焚香謹図之 安産守護手児霊神 **南無妙法蓮華経**（手児奈霊神像）　真間山 若有懐妊者安楽産福子　日慎（花押） 七十世 授よし　真木野安産講社中家門繁栄子孫長久者也		昭和三十三年一月吉日改装 真木野区子安講一同 山﨑ふさ　山﨑さき　山﨑葉子 山﨑　隆　花澤はな子　戸田乙伊 山﨑とよ　山﨑恵子 戸田ふじ　山﨑はつ

万葉集にも歌われた真間の手児奈は、諸人に羨望されたがために自殺した美人で、法

華経教義や鬼子母神とは関りがない（注 1）が、文亀元年（1501）、弘法寺第７世日与により子授け・安産・子育ての守護霊神とされた。題目の左の「若有懐妊者安楽産福子」は、「妙法蓮華経 法師功徳品 第十九」により、「法華経を受持信行する者の安産は間違いない」との意である。明治 44 年（1911）に真木野の安産講に授けられた掛軸で、裏面には子安講 10 名で昭和 33 年（1958）に改装した旨が記されている。（表 2）

２．山﨑一男家所蔵の鬼子母神掛軸

山﨑家には、数多くの題目曼荼羅などの掛軸を所蔵しているが、そのうち鬼子母神像を描いた３幅を紹介する。山﨑家としての病気平癒や安産などの祈願の信仰物であるが、鬼子母神信仰の貴重な参考資料として掲載する。

表３　山﨑一男家所蔵の鬼子母神掛軸

（1）鬼形鬼子母神像掛軸（絹本金泥）

鬼面で合掌して立つ姿の鬼子母神像で、中山法華経寺で病気平癒祈祷に用いられ、鬼子母の鬼にちなみ、祈祷による現世利益の効験さらに強調するために、恐ろしい鬼の形

をとった（注 1）という。作者銘は「石亭」、紀年銘はないが、正中山遠壽院二十三世日逞（1858 没）の署名のあることから、江戸後期の制作であろう。正中山遠壽院は、修行僧の荒行を今に伝える中山法華経寺の塔頭で、「御祈祷根本相伝所」として鬼子母神を祈祷の本尊とする秘法を伝えてきた。（表 3 左）

(2) 開運愛敬鬼子母神像掛軸

右手に柘榴樹、左手で子を抱く天女型の子安鬼子母神像が刷られた掛軸で、近代に東京谷中の信行寺で授かったと思われる。遠晃院日明と東山檀林玄構の署名がある。

「及至夢中　亦復莫悩」は、妙法蓮華経陀羅尼品第二十六にある。（表 3 中）

(3) 厄除鬼子母神像掛軸

天女型子安鬼子母神像で、主尊銘は「厄除鬼子母神」。「謹自画」とあるので、有名な鬼子母神霊場が配布した絵を、所蔵者が写したかと思われる。（表 3 右）

３.「アワヌシ様」の信仰資料

山崎博康氏の案内で、神明神社の奥の山林内の「アワヌシ様」を訪ねた。女性の下の病に効くという神社で、祠の中には、本尊の木製の小さなお札（板曼荼羅）と、体の悪いところをなでるとよくなるといわれる丸石、小さな土人形が奉納されていた。

表 4　「アワヌシ様」神祠と本尊の板曼荼羅

表5　土人形と丸石

板曼荼羅の表側には題目曼荼羅、裏には「維時文久二年壬戌年七月吉日」の紀年銘と「開眼主　高譽山（妙徳寺）廿八世本慈院日遵」と「施主　當村（真木野村）山嵜弥兵衛」の銘がある。曼荼羅の諸神名では、特に女人信仰の「十羅刹女」が目立つ。

女雛・袴人形・福助などの人形は、東京浅草の今戸や隅田川流域とその周辺で作られていた「今戸人形」である。

山﨑家では「安房神を祀る」と伝えられている（注 2）が、全国に広く分布し、婦人病快癒に霊験がある「アワシマ神」との習合も否定できない。特に人形が奉納される風習は、アワシマ信仰の総社である加太淡嶋神社、各地の同信仰の神社仏閣の特徴である。

この神社には、真木野のほか、島田新田や神久保などの近隣の村の女性たちが連れだって参拝に来ていたという。祠の前には、明治 9 年と米本の人が奉納した昭和 28 年銘などの小さな手洗石 3 基がある。

おわりに

真木野では子安鬼子母神と手児奈霊神の掛軸を共に掲げて子安講を行ってきた。八千代市内の日蓮宗地域での女人講は、子安講のほか、お釈迦講（平戸）・七面講（佐山）などもあり、村ごとに様々であるが、子安鬼子母神を主尊として祀る地区が多い。

日蓮宗では、中世の板碑でも、改心して法華経の守護神となった十羅刹女と鬼子母神を曼荼羅の諸仏神に加え崇拝してきた。近世に、一般の村で十九夜講から派生して子安観音像を祀る子安講が盛んになると、日蓮宗地域の村でも、子安観音像によく似た慈愛に満ちた天女型の鬼子母神像を講の本尊として祀るようになったと思われる。

天女型と並んで、中山法華経寺流の鬼形の鬼子母神像も祈願の対象として崇められた。山﨑家の絹本金泥の鬼形鬼子母神像掛軸は、美術的にも優れた文化財である。

資料を快く閲覧させてくださった山﨑博康氏と真木野の方々、銘文の翻刻で助言いただいた畠山隆会員に厚く御礼申し上げます。

注

1. 内野久美子「鬼子母神信仰にみる民衆の祈りと姿」『日蓮宗の諸問題』 1975 年
2. 菅原賢男「真木野の教育者 山﨑弥兵衛について」本誌 4-1　2023 年